



伝統はここから

受け継がれる剣の道 広野町剣道スポ少



「メイン」、「ヤー」
閑静な公園の一角から元気な子どもたちの掛け声が聞こえてくる。その声を発しているのは、剣道スポーツ少年団の子どもたちである。広野町剣道スポーツ少年団は、週3回広野町で練習を重ねている。過去には、県大会で優秀な成績を収めるなど輝かしい実績がある。昨年の9月に行われた県大会でも小学生が県3位の成績を収めた。
今月号では、震災後も継続的に活動し、活躍している剣道スポ少を紹介いたします。

震災を経てひとつに

平成23年3月11日に発生した東日本大震災の影響により、剣道スポ少の子どもたちも県内外への避難を強いられた。
変わり果てたふるさと、そして、自分たちの置かれている状況から、「もう剣道ができないかもしれない」「そんな声も聞こえてきたという。」

そんな中、指導者である根本敏法（このり）さんは、「お互い励まし合いながら、元気を届けたい」という強い思いから、震災前からあった剣道スポ少のブログを掲示板として活用し、連絡を密に取り合った。

平成23年の「ゴールデンウィーク明けから、いわき市で月1回程度の練習を再開。
平成24年2学期からは、小中学校が広野町で再開したのをきっかけに本格的に広野町での練習が復活し



保護者からの信頼

現在、剣道スポ少の子どもたちの多くは避難先から通っているため、練習に参加するためには、保護者の方々の協力が欠かせない。保護者のみなさんは、子ども

た。
根本敏法（このり）さんは、「震災時に近況報告して、励まし合っただけから、現在も剣道スポ少としてまとまって練習できていると思えます」と話してくれた。

もたちを練習場に送り届けると、約2時間程度子どもたちの練習を見守っている。ある保護者の方は、「最初は、広野町で練習をやることに不安もありましたが、熱心な先生たちに教えていただけると安心です」と話してくれた。指導者と保護者の間も強い信頼関係で結ばれている。

受け継がれる剣の道

現在、剣道スポ少を指導している根本敏法（このり）さんは、24歳のときから練習に携わっている。当時から監督として指導を行っているのが池田光吉（ひかりよし）さんである。根本さんも池田さんの教え子の1人。

池田さんから根本さんにしっかりと剣道への想いが受け継がれている。子どもたちに向けて根本さんは、「大会で優勝するだけでなく、広野町の剣道

をしつかり受け継いで下の子どもたちにつなげて欲しいです」と話してくれた。練習には、剣道スポ少OBの現役高校生も時間を見つけては、後輩の指導にあたっては、その姿は、しっかりと子どもたちにもその想いが伝わっている何よりも証拠だ。

指導者、子どもたち、保護者が強い絆で結ばれていることが剣道スポ少の強さの秘訣なのかもしれない。

Interview



大会で優勝したい

松本 侑也（ゆうや）さん
（広野小学校6年）

姉の影響で、小学校1年生から剣道を始めました。練習は大変だけど、試合に勝ったときは本当にうれしいです。これからもいっぱい練習を積んで多くの大会で優勝したいです。